

向山緑地・立野川勉強会、(学)自由学園 環境文化創造センター

【活動エリア】 向山緑地・立野川源流域

【活動日】 毎月最終土曜日

【代表名】 岸昭一（向山緑地・立野川勉強会）、鈴木康平（自由学園環境文化創造センター）

【主な活動内容・紹介】

向山緑地・立野川源流域（東久留米市南沢3丁目）は、北向きの縁崖林で、在来の野生植物が多く生育しています。旧石器・縄文時代（向山遺跡）から近年（農家の共有地）に至るまで、人々の生活の場として利用され、大切に守られてきました。

向山緑地・立野川勉強会は、この豊かな自然環境を維持・保全していくために、2012年3月に発足し（(学)自由学園と、NPO法人南沢シュタイナー子ども園が団体会員）、東久留米市とボランティア協定を結びました。毎月最終土曜日の活動日では、まず自然観察を行い、緑地内の自然環境について皆で勉強し、この貴重な自然環境をどのように維持していくのか考えながら保全活動に取り組んでいます。



北側の道から見た向山緑地・立野川源流域（2023年4月7日）
向かって右が西側の立野川の最上流。道と畑の間を左（東）へ流れている。



ちょこボラ 募集中！！

活動場所：向山緑地・立野川源流域 活動日：毎月最終土曜日

時間：9:00～11:30（自然観察の後、保全活動を行います）

参加方法：直接現地にお越しください

環境トピックス①

向山緑地若返り事業（東久留米市 森林環境譲与税充当事業）

東久留米市による「向山緑地若返り事業」が2019年度から2023年度にかけて行われています。この緑地周辺の自然、水源の森を今後も守り続けるための一環として、緑地内の樹木の高木剪定・伐採が行われています。2019年度事業では、主に南側道路沿いの高木剪定が行われました。2020年度の事業では、市内でブナ科のナラ枯れが広く見つかったことにより、向山緑地のコナラ等についても、樹木の寿命を考えると公園内での倒木の危険が想定された為、10本以上のコナラが伐採されました。

勉強会では、それらの萌芽更新と林床の植物の保護・育成に取り組んでいます。



2023年5月7日撮影

環境トピックス②

「ナラ枯れ」について

現在関東圏で被害が拡大している「ナラ枯れ」を向山緑地でも2020年8月上旬に初めて確認しました。ナラ枯れは、カシノナガキクイムシが、樹木を枯らす病原菌（糸状菌の一種）を伝播することで起こる「樹木の伝染病」です。

2021年度は、切株からのカシノナガキクイムシの羽化脱出、周辺のブナ科樹木への侵入を予防するため、粘着シート被覆等（農薬不使用）による「予防」を実施する予定です。

ナラ枯れに関する調査研究は、主に（学）自由学園が東京大学田無演習林の研究協力で行っています。またその経過は、多摩六都科学館で展示予定です。



ナラ枯れの様子（2020年8月6日）